

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000732		
法人名	株式会社プラティア		
事業所名	グループホームプラティアひょうたん山		
所在地	大阪府東大阪市新池島町1-1-5		
自己評価作成日	平成30年8月12日	評価結果市町村受理日	平成30年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成30年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針である①ご入居様が主人公②尊厳を保つ③いきいきとした生活④認知症の進行を防止⑤地域社会と共にを柱としたケアに重点を置き、柔軟かつ繊細な対応に努めている。職員は入浴などのケアに関しては利用者が希望されている時に対応できるように心がけ、認知症や接遇などの勉強会を実施し尊厳を持って接している。外食や買物に行ったり近隣の散歩をしたりして閉塞感のない生活を過ごしていただけるように努めている。地域との関わりを密とし自治会行事に参加、ボランティアの来訪も受け入れ地域との交流を深めている。入居者様本位のケアの実践に努めている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

川沿いの桜並木が見渡せる、散歩や買い物等日常生活に便利な環境にある。自治会の協力があり、春・夏・秋の祭りへの参加を継続している。家族の面会や運営推進会議への参加が多く、家族や地域とのつながりを大切にしながら支援できるように取り組んでいる。手作りの調理を継続し、職員と共に食卓を囲み、また、季節感のある環境づくりを行う等、季節感や生活感が感じられる家庭的な雰囲気づくりに努めている。「寄り添い介護」を活用し、利用者個々の要望の実現にも取り組んでいる。定期的な会議の開催・人事考課・勉強会やクリップインでの研修等、職員の資質向上にも注力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけ、出勤時も確認している。また全体会議でも唱和している。	法人共通の運営理念・スローガンを共有し、「地域社会と共に」という地域密着型サービスとしての意義を明示している。入職時に説明し、スタッフルームへの掲示、毎月の全体会議での唱和、クリップラインを活用した研修などで、継続的に職員に周知を図っている。全体会議・フロア会議で理念に立ち戻って検討し、寄り添い介護への取り組み等、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新池島町自治会の行事に参加させていただいている。(春祭り、夏祭り、秋祭りなど)	自治会に加入し、春・夏・秋の地域の祭りに参加し交流の機会を持っている。気候の良い時期には近隣の散歩を日課とし、近隣の喫茶店・スーパー・理美容院等、地域資源の活用にも努めている。プラティア秋祭りはボランティアの協力を得て、地域住民も招待し開催している。他のグループホームとも協力し、定期的に地域のドラッグストアで介護相談を実施し、また、廃品回収にも参加し、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけている。また全体会議でも唱和している。		

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中にグループホームがあるということを念頭において、地域の方、家族様と積極的に意見交換を行っています。	家族・地域包括支援センター職員・自治会長が参加し、2ヶ月に1回開催している。毎回、多数の家族の参加がある。時には、利用者の同席や知見者（他事業所管理者）の参加もある。会議では、資料を配布して、利用者状況・事業所の活動・事故・予定等の報告を行い、その後、参加者と意見・情報の交換を行っている。家族からの意見や、地域行事・地域包括支援センターの活動についての情報等を、サービスや運営に反映している。会議の議事録は各フロアで回覧して職員に周知すると共に、玄関に設置して公開している。	今後も、利用者・知見者の参加を積極的に呼びかけていくことが望まれる。また、運営推進会議では、外部評価結果や目標達成計画についても報告することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する勉強会、連絡会には積極的に参加している。	地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加を通して、連携を図っている。市が派遣する介護相談員を受け入れを通して連携がある。管理者が東大阪市地域密着型サービス事業者協議連絡会の副座長を務め、市と協働して会議や勉強会を運営している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけている。またスタッフ会議でも唱和している。	契約書・重要事項説明書に明記し、契約時に利用者・家族にも説明し、身体拘束を行わないケアを実践している。クリップラインによる研修で、職員全員の受講を確認し周知を図っている。スピーチロックなど気になる言葉かけがあれば注意を促し、意識向上に努めている。全体会議での勉強会と委員会の設置も予定している。玄関は鍵をかけているが、外出の意向があれば職員が対応すると共に、階段・エレベーターの使用は自由で、1階・2階を行き来でき、閉塞感を感じないように配慮している。	

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が外部の虐待に対する研修に参加し、職員には管理者から研修しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市などが主催する勉強会には参加し、制度の把握に努めている。現在、成年後見制度を利用されている方が2名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明時間を取り、重要事項説明書、利用契約書で理解した上で入所していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者様の行動、発言・様子からニーズの把握に努めている。家族様には面会時や電話やおお手紙、機関紙「プラティア通信」で定期的に報告している	日頃から家族の面会が多く、面会時に家族の意見や要望の把握に努めている。2ヶ月に1回発行する「プラティア通信」に個別の近況を記載し、意見や要望が出しやすいようにしている。把握した意見や要望は業務日誌や介護日誌に記録して職員の周知を図り、個人的な内容は個別に対応し、口腔体操の実施等サービスや運営にも反映している。運営推進会議に多数の家族の参加があり、外部者に意見を表せる機会も設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月に各ユニット毎の会議、またグループホーム合同の会議を開催し意見や要望を聞き入れたり、日々の業務の機会でも意見を聞き反映している。	全体会議とユニット会議を月1回開催し、各会議には管理者も参加し職員の意見・提案の把握に努めている。年3回人事考課の個人面談を行い、エリアマネジャーと管理者が職員の意見を個別に聴く機会も設けている。また、管理者単独で個人面談する機会も設けたり、日々の業務の中で聴き取る等、職員の意見の把握に積極的に取り組んでいる。職員の意見や提案は、業務改善や利用者の支援方法などに反映している。	

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の仕事に常に目を向け、指導や相談にのり評価される人事考課表を実施し、モチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の職員研修、階層別の研修を計画的に実施したり、管理者も研修		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会を通じて他の事業者との交流し、研修会にも参加したり、交流会に出向いたり活動している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接から本人、家族様から相談内容や不安をお聞きして解決に努めて、スムーズな入所を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に情報聞き取りに加え、書面での情報収集も家族にお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分な面接を行い、適切なサービスについて助言してアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは行っていただくということを第一に考え、出来ないことを援助させていただくことで、共同での生活の作業を行っています。		

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、定期的に電話することにより入居者の方の状態をお伝えすることをさせていただき、家族様にも協力いただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所の情報収集もしっかりし、入居者・家族側からのご要望にあわせ外出援助を行っています。去年からは、個別ケアに重点をおき、馴染みのあるところへ職員と1対1で行き、支援しています。	入居時に把握した馴染みの人や場所についての情報は、フェイスシートやアセスメントシートに記録している。近隣からの入居が多く、家族・友人・知人など馴染みの人の来訪が多く、居室やフロアでゆっくり面会できるように配慮し、関係継続を支援している。喫茶店や理美容院など、馴染みの店の利用も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が、孤立されている場合は、職員が間に入りコミュニケーションをとることを心がけ、相入居者様本位のケアを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られても、年賀状などを送らせて頂いたり相手側からも送って来られたりホームに来られ相談等様子をお伺したりと関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の会話の中や行動・日々の様子等からニーズを導き、希望に添えるように努めている。	入居時に把握した利用者の思いや意向は、フェイスシートやアセスメントシートに記録し介護計画に反映している。入居後に把握した思いや意向は介護日誌に記録したり、フロア会議で共有し支援に活かしたり、内容に応じて寄り添い介護を活用して対応している。把握が困難な場合は、表情や反応から推察したり、家族からの情報を参考にする等、本人本位に検討できるように努めている。	

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントに引き続き、ケアマネ、家族様の協力の下、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が入居者様との会話や生活スタイルを観察した中から、個々に合わせたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時やお便り、電話で本人のニーズ、家族様の思いを聞きのぞみを取り入れ反映している。	フェイスシート・アセスメントシートで把握した内容から課題を抽出し、初回の介護計画を作成している。作成した介護計画をフロアに設置し、周知を図った後にファイリングしている。サービスの実施状況は、介護日誌やチェック表に記録し、毎月のフロア会議で、利用者の状況を共有している。初回は1か月後、それ以降は3～6ヶ月毎に介護計画の見直しを行い、見直しの際には、モニタリング表でモニタリングを実施し、評価を次の介護計画に反映している。	介護計画に基づいたサービス実施が記録から明確になる記録の工夫が望まれる。また、計画の見直しの際には、再アセスメントと会議の位置づけ、会議録への関係者の意見の記載が望まれる。再アセスメントの際には日々の会話から得た情報を追記し、情報の蓄積を支援に反映することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様状態等介護日誌を記録し、心身の状態の変化や気づきの点を申し送り欄に記入や口頭でも伝え職員間で情報の共有をやすくして、毎日モニタリングに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活歴、フェイスシート家族等から参考や管理者からアドバイスし、個人個人にあった生活を提供させていただけるよう取り組んでいます。		

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自己決定を尊重し、スーパーへの買い物、近隣の昔から行きつけの店への息抜きや思い出の場所など、地域の資源を利用させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関はあるが、希望があれば入居前の主治医の継続は可能である。週1～2回の割合で往診を受け、緊急時は24時間対応できる体制を確保している。	協力医療機関があり、内科・精神科・歯科・眼科の往診が受けられる体制がある。希望に応じて入居前からのかかりつけ医の継続も可能であり、通院の際には職員が同行支援し、状況を直接伝え受診結果を把握している。「医療連携体制記録」「往診記録」を活用し、医師・看護師・職員の連携が図られている。往診・通院の受診結果や指示については、業務日誌・介護日誌に記録し職員に周知している。内容に応じて、家族に電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護をさせていただいている。また、日常の体調の変化など気付いた事を常に看護師電話で報告して指示仰ぎ。訪問時にも指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は週1回の割合で面会を行い、医療機関より情報を提供していただきフロアで共有している。退院直前には予め職員会議で協議し円滑に進むように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年に入り重度化された入居者様があり随時、家族様、看護師、医者との連携をとり、情報の共有化を徹底に努めている。	契約時に、重度化・終末期に向けた方針を「医療指針説明書」で説明し、同意を得ている。看取り介護の事例はないが、家族の要望があり、可能な状況であれば、医師・看護師と連携し、家族の意向に沿った支援を行っていく方針である。年間研修計画に沿って、「看取り介護」の研修を毎年実施している。	

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急時の対応マニュアルを作成して管理者から指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施と自治会に協力体制お願いしている	平成30年は1月と6月に、昼間想定で消防訓練を実施している。訓練に参加できなかった職員には、訓練の実施計画・実施要領・訓練記録を回覧し、周知を図っている。運営推進会議での要望から、自然災害を想定した訓練を実施する予定である。	災害時に昼夜を問わず避難できる方法を全職員が身につけられるように、消防署・地域の協力も得て、夜間想定での訓練も実施することが望まれる。また、備蓄の整備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応に関し、管理者が見本となり、職員にもその都度指導したり、認知症、接遇について内部研修でも取り上げて実践に努めている。	スローガンの一つである「尊厳を保つ」の周知、全体会議での勉強会、クリップラインでの研修等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について意識付けできるように取り組んでいる。気になる言葉かけや対応があれば、管理者から注意を促し職員の意識向上に努めている。個人記録類はスタッフルームの鍵のかかるロッカーに保管し、掲示やブログでの写真の使用については契約時に書面で意向を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の行動・言葉に常に気を配り理解しやすいように説明を行った上で、意思や希望が出やすいように職員が声掛けや環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活スタイルに合わせて、日々工夫して援助に努めている		

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は自己にて決定して頂きその日の雰囲気やその人にあったオシャレの援助をさせていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のカットや盛り付け、片付けを職員と一緒にしている。火曜日の夕食は自由作成日として入居者様のご要望に応じて職員と共同で買い物に行き、ホームで食事作りをしている。	昼・夕食は委託業者から献立と食材の搬入を受け、各フロアで調理し手作りの食事を提供している。朝食は、職員が買い物から行っている。週1回は夕食を自由調理とし、利用者の希望を聴いて献立を考え、買い物・調理を行っている。職員も一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気です。食事が楽しめるように配慮している。外食レクや寄り添い介護を活用して、外食や喫茶を楽しむ機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	傷病には留意して、食事の量、栄養面、水分摂取量を個々に考え援助させていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、見守りや介助し口腔内の清潔保持に取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中・夜間通してトイレでの排泄を心がけて生活に近いレベルで対応を行い、ADLが低下しないようにも生活リハビリにも努めている。	排泄チェック表を活用して利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援している。毎月のフロア会議で利用者個々の状況を共有し、現状に即した排泄用品や介助方法を検討している。ドアにカーテンを設置しているフロアもあり、誘導時の声かけに留意する等、プライバシーや羞恥心への配慮について周知を図っている。	

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の食事で食物繊維、水分摂取、乳製品等の食物で自然な形で排泄を促す取り組み看護師共に連携している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日は設定せず、入居者様の声を第一聞き、その人の生活スタイルに応じる形を取っている。	曜日・時間帯を固定せず、利用者の希望やタイミングに応じて支援し、週3~4回入浴する利用者が多い。利用者ごとにさら湯にし、職員と会話を楽しみながらゆったりと入浴できるように取り組んでいる。異性介助を嫌がる利用者には同性で介助し、状況に応じて2人介助で対応する等、フロア会議でも検討し個別の対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人にあった生活スタイルに合わせて入居者様基準で、起床・臥床を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の内容の把握はもちろん、変更に関しても介護日誌・口頭でも申し送り職員全体が把握できるように服薬手帳にも記入している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣向をベースにした生活スタイルを提供している。当ホームでは喫煙、飲酒も認め利用者本位に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望、残存機能にあわせ、外出を積極的に行い、家族様にも協力頂いたりその都度希望に応じて対応している。	気候の良い時期には散歩を日課とし、歩行の利用者も車いす使用の利用者も均等に戸外に出かけられるように努めている。地域の春・夏・秋祭り、近隣の桜並木の花見等、季節感が味わえるようにも支援している。寄り添い介護を活用し、小グループや個別で、近隣の喫茶店や買い物に出かける機会も設けている。	本人の希望を把握し、普段は行けないような場所にも出かけられるように支援することを期待する。

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、自己管理にて嗜好品を買いに行かれています。自己管理が出来ない方は、事務所で小口現金を預かり、希望にそって職員付き添い買い物に出かけて本氏の意思決定をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に合わせて、かけて頂き、本人でも携帯電話を持っておられる方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔に保ち、ベランダに花や植木を置き、リビングには四季を感じる写真・貼り絵等を展示している。	各フロアのゆったりと広い共有空間は、採光がよく明るく清潔感がある。テーブル席、ソファセット、テレビが配置され、思い思いにくつろげるように配慮されている。壁面に季節感のある制作や外出や行事時の写真が飾られ、キッチンから調理の音や匂いが感じられ、季節感や生活感が感じられる。1階・2階を自由に行き来でき、利用者間の交流や気分転換ができる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも長椅子を設置し、気の合う方同士や一人でも過ごせるスペースを確保したり、四季応じて模様替えをしたりと工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた愛着ある家具類、テレビ、仏壇等を入居時に持ち込んで頂き、心地の良い住環境を提供している。	各居室に、洗面台とクロゼットが設置されている。家族の協力を得て、たんす・飾り棚・ベッド・テレビ等使い慣れた家具が持ち込まれ、また、家族の写真や人形などを飾り、居心地よく過ごせる居室づくりが行われている。各居室の前に、写真を入れた壁飾りを設置し、部屋間違いの防止に工夫している。	

グループホームプラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	ホーム内には手すりを設置し、バリア フリー移動しやすい環境を整えている		